

**製品名: HDAC2 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21580**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:55kD;Observed MW:55kD

**抗原情報**

遺伝子名	HDAC2
別名	HDAC2;Histone deacetylase 2;HD2
遺伝子 ID	3066.0
SwissProt ID	Q92769
免疫原	ヒト HDAC2 の組み換えタンパク質

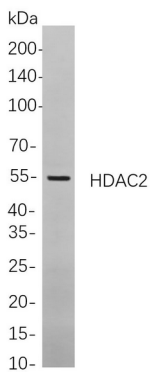
**背景**

細胞局在: 核。この遺伝子産物はヒストン脱アセチル化酵素ファミリーに属する。ヒストン脱アセチル化酵素は、大きな多タンパク質複合体の形成を介して作用し、コアヒストン（H2A、H2B、H3、H4）の N 末端領域におけるリジン残基の脱アセチル化を担う。

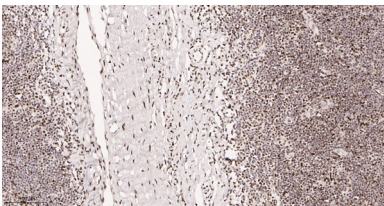
このタンパク質は、哺乳類のジンクフィンガー転写因子である YY1 を含む多くの異なるタンパク質と会合して転写抑制複合体を形成する。したがって、転写制御、細胞周期の進行、および発生過程において重要な役割を果たしている。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2010年4月]

## 研究分野

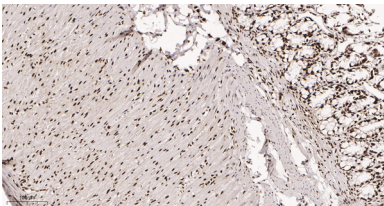
## 画像データ



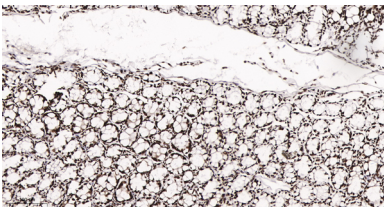
C6細胞ライセートのウェスタンブロット解析 (HDAC2 ウサギ mAb を使用)。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



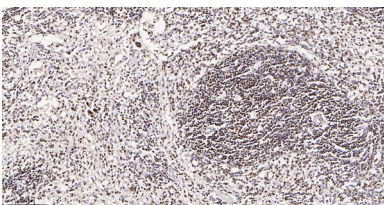
パラフィン包埋ヒト扁桃組織の免疫組織化学分析。1、HDAC2 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ラット結腸組織の免疫組織化学分析。1、HDAC2 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋マウス結腸組織の免疫組織化学分析。1、HDAC2 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ラット脾臓組織の免疫組織化学分析。1、HDAC2 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2、EDTA pH 9.0 を使用して抗体を回復させた (>98°C、20分)。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。